

新潟市立岩室中学校 教育ビジョン 2024 より『個の成長』に着目し進化する学校に

教育目標 これからの社会を見据え、育成したい生徒の姿

よりよい姿を求めて学ぶ生徒

「よりよい姿を求めて学ぶ」とは

- (1) 正解のない課題に正対し、自ら問いを立て、自ら学び、自ら考え、行動していく力を身に付けること。
- (2) 地球規模の視野から課題を認識し、自分事として捉え、解決のために足元から行動することができること。(Think Globally, Act Locally)

重点目標 教育目標の実現に向け、学校生活のさまざまな場面で表出されることを目指す生徒の姿

○自分で気付く、考える、動く

○物事を広い視野で多面的に捉える

○他者と調和を図りながら、共に創る

育成する資質・能力 目指す姿は、次のような資質・能力が身に付いていることで発揮される。

(1) 各教科等の視点から

- ①【問題解決に役立つ「知識・技能」】
- ②【「知識・技能」を活用して「思考・判断・表現する力等」】
- ③【「学びに向かう力、人間性等」→「自己調整しながら粘り強く学ぶ力」】

(2) 汎用的な視点から

①【言語や情報を使いこなす力】

ア 論理的思考力 イ 課題設定力 ウ 解決意向

※解決意向（課題解決のために必要な計画や方法を自ら具体的に立案しながら取り組むことのできる能力）

②【自分をコントロールする力】

ア 決断力 イ 柔軟性 ウ 個人的実行力 エ 自己効力

※個人的実行力（自らの意志によって行動して計画を進め、何事も自ら進んで取り組むことのできる能力）

※自己効力（何らかの課題に直面しても、自分ならできると自信をもって物事を進められる能力）

③【多様な人たちの中で協働できる力】

ア 傾聴・共感力 イ 思いや考えを表現・発信する力 エ 影響力の行使

※影響力の行使（他者に対して自分の考えや目的を伝えながら共に協働して物事を進めることのできる能力）

教育活動の重点（重点方策） 目標に設定した姿を具現するために重点をおくこと（※(1)と(2)は連動する）

(1)「深い学びが生まれる授業」をつくる

(2)「自己成長力」を高める

重点方策の具体

(1)「深い学びが生まれる授業」をつくる。

「新潟市が目指す授業づくり」を踏まえながら、早稲田大学教職大学院田中博之教授の指導の下で、『深い学びへいざなう手立て（20の技法）』を、各教科等において意図的・重点的に実践する単元・題材に具体的に落とし込んで実践する。⇒【研究委員会・教科部】が推進

①目指す深い学びの姿（生徒がどうなったら深い学びなのか）と授業過程（どうやったら深い学びになるのか）を教科ごとに設定した上で、具現に向けて教師一人一人が自己の授業課題の解決に計画的に取り組む。

②各教科等の「単元・題材における資質・能力一覧表」と「評価計画」に基づく指導と評価の一体化を確実に進める。

③短い期間・範囲で学習の確認（単元テスト等）の機会を設定することで学習後時間を空けずに「わかっていること・できていること」と「わかっていないこと・できていないこと」を明らかにさせる仕組みにする。

(2) 日々の学校生活の諸場面で生徒が「自ら気付く、考える、行動する」機会を奪わないかかわり方を共通実践し、生徒が自律する機会を保障する。⇒【生徒指導部・特別活動部】が推進

(3) 学び合う基盤となる学級の風土づくりと自己成長への動機付けをすべての学級で計画的に実践する。⇒【特別活動部】が推進

①学級力アンケートを基にした Re-PDCA サイクルに沿った学級活動「学級力向上プロジェクト」を年間通して計画的に実践する。

②全員の考えが大事にされ、個の力が生かされ、かかわり合いが促進されるファシリテーションの考え方やスキルを積極的に活用する。

③自己成長力の自己診断を基に自ら客観的に分析し、行動計画を立てて実践・評価する「自己成長プロジェクト」を計画的に実践する。

(4) すべての生徒にとって学びやすい環境整備、指導と支援の方法を保障する。⇒【学習部・特別活動部・特別支援教育部】が推進

①教室の基礎的環境整備と授業のグランドルールを徹底する。

②ケース会議を核に生徒の課題把握と役割分担を明確にした支援体制を強化する。

③校内適応教室や保健室の活用、関係機関との連携体制を明確にする。

④障がいや特性を踏まえた個別の指導計画に基づく計画的な支援を行う。

(5) 総合的な学習の時間を、あらゆる学習の基盤として重点と考える資質・能力を育成する軸と位置付け、探究の過程をより充実させる。⇒【キャリア教育部】が推進

地域と学校協働活動「総合的な学習プロジェクト」として計画・運営・評価・改善を進める。

①様々なモデルとなる人と出会ってその生き方に学びながら「深く掘り下げてみる目」「広い視野でみる目」「将来をみる目」を養い、「自分の軸となる考え方」を育む。

②実社会と関連付けた学習内容を通して、地球規模の視野から SDGs の視点に立って課題をとらえ、自分事として認識し、解決のために足元から行動する (Think Globally, Act Locally) 基礎を培う。

③「探究の過程」をたどる学習過程とする。

教育活動の基盤に据えること

(1) 授業、行事、職員研修等での目的を明確にしたファシリテーションの積極的に活用した学び合う文化の醸成

(2) ICT の積極的な活用

①個別最適な学び（指導の個別化、学習の個性化）と協働的な学びのためのねらいに即した ICT 端末の活用 ②学びの保障、自律的な学びを推進するための、宿題や自学の材料提供としてのオンライン活用

③各種業務の効率化につながる ICT の効果的活用の推進

(3) 共に歩む地域の学校の一層の推進

①学校、保護者、地域の信頼関係が一層強固となるための情報公開、説明責任 ②実効性の高いコミュニティ・スクールの運営 ③地域と学校パートナーシップ事業の重点化と継続 ④目指す人間像の共有

と9年間の成長を見通した学区内小学校との一層の連携